

アシンメトリー

多田龍介

◆目次

夏の夜に

実るほど頭を垂れる

蟬の一分

間違いだらけの僕たちを

けもの道

騒がしい沈黙

社会通念

醸すには

まだできること数えて

また酔つてしまふ前に

24 22 20 18 15 12 10 8 6 5

眠れる獅子

ある記録

アナーキーインJP

鉄鎖

ままよ

オートマタ

英雄夢想

写真は添えるだけ

アシンメトリー

昔、カリブで

あとがき

45 42 40 38 36 35 34 32 30 28 26

夏の夜に

話を盛りたがる人たちがいて
帳尻を合わせなければならなくなる現場がある

あの病院の中では今までも今も
んごいことがなされている

のを知っている身としては

正しいことがなされているとは言えない

実るほど頭を垂れる

スポーツ好きなら楽しまなきや損ですとラジオの声
スポーツ好きじやなかつた

見なくとも大体知つてます
ニュースは読みますからね

すさまじいのですよ、もう頭を低くしているしか
流れ弾に当たる、ぱふく匍匐^{ぱふく}前進だ

こんなとき詩の書けるものか
ここで書けなきや詩人なんか

という気持ちで選手も臨むことでしょう
ああ、僕ら余剩でできていた

自由も平和も平等も

プリンの上のカラメルの如き物だつたなんてそんな

おつと頭が高かつたようだ

スパンツ

I thought my life is seen and listened. Wiretapping for a long time.

Against this, I talked to wall. Did it work? Yes probably.

Big effect and confusion to world and it ruined my life so I choose silent again.

Will it work? Maybe. Who, why? I don't care.

僕は君、ただのリーメンやなごや
来る口や来る口や懸念に働くやわがや

地球防衛とか自己警備とか

.....

五輪に対する僕のつぶややせ
そういう斟酌をもつ放棄して
一個人の人間として発言やねむるや
発露を示してこや



間違いだらけの僕たちを

鶏もも肉の照り焼きを焦がしてしまった
照りというか焦げですな

完璧でないことを
受け入れなきやいけない

老いた父母などにまでは手は及ばない
人のこととなるともうどうしようもない

完璧でないことを
受け入れなきやならない

オリンピックは準備不足
というか警戒はザルだそ�だ

完璧でないことを

といつて堕落の限りを尽くされても困る

でもいいと思うんですよ

でたらめであることが周知徹底されて

かくなる上はデストロイですか？

捨て鉢にならないことだ、苦しくとも

けもの道

一時間早く起きる人は不機嫌なんだつて
一時間椅子に座つてゐる人は
寿命が何十分縮むんだつて

縮んだ分も含めて寿命というんじやないでしようか
しかも教えて下さるのが精神科医のお医者さん
ヤブ医者の類なのだ

うむ、誰の指図も受けない

あんまり危ないことしちゃいけないと思うんですよ

先生に逆らつた?

それは危ない

度が過ぎれば一発病院送りレッドですよ

男に意見した？

それは危ない

腕力に物言わせて殴られたりしたら

赤子が生まれた？

それは危ない

末法の世でどんな災難に遭うか

こうして生まれるのが一番良いという結論に……

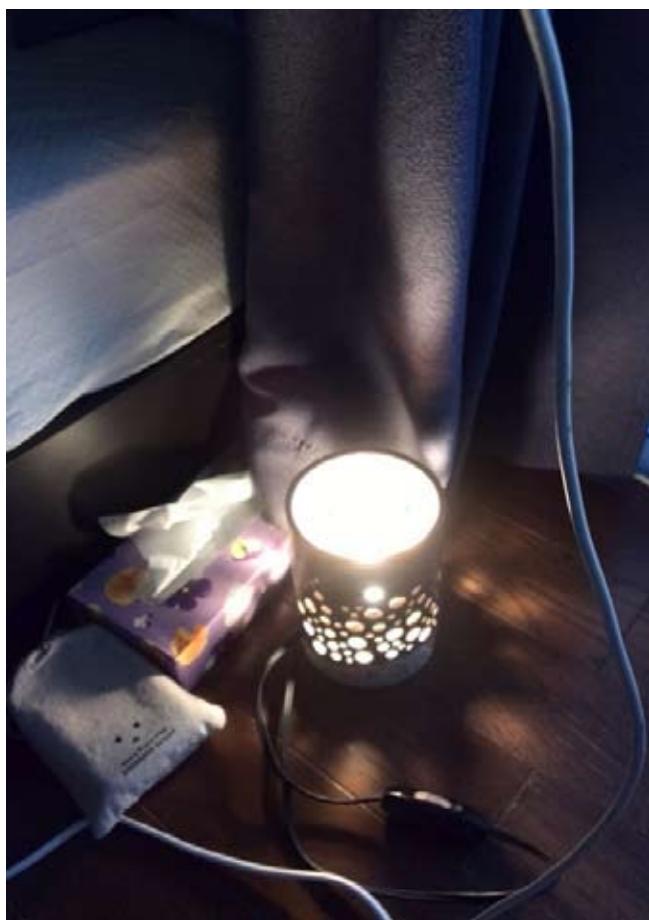
どこかに間違いがあるはずだ

相手の刃を見据えながら

自分の生存権を主張していかねば

悪いことばかりでもない

悲惨の中にも幸せを見る僕もいる



騒がしい沈黙

子を産めない僕は代わりに詩を書き
生命の創造

不平を言うのが仕事です

どうしたら満足かわかつてない

これは難しいことだよ

要求に際限がない

僕は満足してるので

そうでしじょうね、三食昼寝付き飲み放題ですもんね

僕の解決方法は万人向けではなく

飢える者に届く言葉は持たず

名声は息をつかせるかもしないが
それもつかの間で

喧騒がバランスを崩させるのだ
批判する者の荷は軽やかだ

書きまくつてやればいいんですよ
各々それぞれの立場で

そして誰も他を聞かない
世はすべてこともなし

* ロバート・ブラウニングの言葉



頑張るしかない、悲しい
そなんだ、かかつてる

頑張りすぎちやつたのねえ
よし、もう頑張らないぞ

社会は〜しかないでできている
と、しがないヒキコが言つてみる

十戒を見ろ

してはならぬのオンパレードではないか

特にそういう取り決めはなくても
ないんだ、ない

そうか、君は飛ぶのか
僕は歩こうと思う

醸すには

ランボオは『地獄の季節』の中で
「俺は架空のオペラとなつた」^{*1}と書いた

そして晩年の手紙の中では
「人生は茶番ではない」^{*2}と書いている
この距離は長い

楽しかつたね、楽しかつたね
今度はもつと楽しくしようね

つて楽しくなんかないわあ」との声
君がイキるとき、誰かが萎えている

しかし僕らはイキらねば
もとい、生きねば

僕が獲得したものは
僕のものだよ、余裕があるよ

生命力の蛇口を閉じた
が、ガスは迂回してどこから吹き出す

また吹き出さねば

自家中毒を起こしその身を滅ぼすだろう

というわけで詩を書いている

*1 『地獄の季節』 ランボ才作 小林秀雄訳 岩波文庫
*2 同右

一九三八・八・五第一刷

121 39
頁 頁

まだできること数えて

ある人が何であつたかというのは
その人がいなくなる時にわかるという

もしくはその能力が失われるときに
僕は命の前に失うことのできる能を持つてている

ではやめてみますか、とログインできないとな
僕が精神に不調をきたしちゃうじゃないの

バンバン、垢バンバンなんて

そんなひどいこと、気軽にしちゃいけないって

いいんですか、パンとサーカスを一手に担う
僕を締め出すだなんて

けれど静かになつたら僕の心の負担も減つて
何がどうなるか見てみましよう

大切なのは肯定することじやないよ
絶縁状を突きつけることだよ、きみ

また酔つてしまふ前に

人間は大きく二つに分けると死ぬと読み
なるほどと感心した、股裂きか

教科書はいい読み物よ、辞書もまた
亜流の前に正統を知ろう

権威が嫌いな方もいて

学校では教えてくれないこともまあある

映像作品に焚きつけられて軽挙妄動しても
誰も助けてくれない、薄情世界

光の中を進めばいい

不条理があつても

やめたらいいのにやめられない
五輪じやないよ、僕の酒

眠れる獅子

僕は拷問の憂き目を知つてゐる

反抗しないから悪くなつたと言われても

扇動し南無三なことになつたら

親御さんに申し訳が立たないんですよ

心は簡単に折れる

ポツキーよりもたやすく

相手の刃の切つ先を見据えて踏み込む

ならいいがそうじやないだろう

どこへ導こうといふのか

こんなことはやめて家に帰れ

なぜ勇気を振り絞つてしまつたのか
母の胸にごねているのが一番よい

という心境に至つてしまつても
命を盾に僕が戦つておられる

無理なら人に投げればいい
バスでもいいし、自走でもいいし

ある記録

解決策を与えるものではない

また何かの行動を推奨するものでもない

溺れる私が溺れるさまを記録しただけの
心の慰めで

また他の溺れる者にとつてもの
慰めになるかも知れない

こうして河童の川流れは記録され

貴重な研究対象へと、ならなかつたかな

辛いとき一人だと思つたらやつてけない
また辛いと言えもしなければもつと辛い



アナーキーイング

僕が文句を言うと

みんなが文句を言いだしてしまうかも知れない
みんなという言葉の愚劣さを承知していながら
そう、みんなが見んなど

そうかもしませんね

じゃあ僕は一人その力学を知り仏のような顔で
いられるか」としようと切れ

しょっちゅうではない

焼酎だ

酒と放蕩に身を沈め、不正を見逃すことですか
怒つたらいいじゃないですか

誰もがいざれ気づきます

まつたく付き合う必要のないでたらめに
付き合わされてきたと

幻想を打ち壊してどうなつたかというと
何のことはない、前より悪くなつたので
こうなれば疲れちゃつた～とつぶやいて
痴呆のように、僕は行きたい

鉄鎖

うまいこと言いたいとか
いらんこと言わないとか
あまり気にしなくなつて

うまいこと言えないし
いらんこと言つちやうし

自由でいいんじやないかな
各々そんな感じだから
当然まとまらず

まとまらない感じ好きだな
これで目標に向かつて一致団結とかだつたら
もつと危機感持つちやつてたな

いつだって拒否権はある
と作品に書かれるとき
あまり拒否権がないのだ

それでも抗い試し選んでいく
この鎖の中で

簡単なことなど一つもなかつた

そこを簡単に見せているのがこのドラ息子である

難しいことは易しくなんて志向するから
もつとこう、重厚に行けませんかね

いいですね、いいですねもいいんですけどね

今いいかどうかわからないところを歩いてるんですよ

あえてそのものの名を呼ばぬところに
詩情が生まれる

直接批判できないときに時間や場所をそらし描く
オブラーートに包まれ……とらんわ、そのものずばりじや

オートマタ

胆力を發揮せよとは「無体な。胆石できそな僕が言つても

こやつらがもう泣かなくていいように、道化てみたらよけい怖いと

健常者と共に行きたいどこまでも、わけわからんのがとにかくいやで

選択の重荷などには耐えられぬ。庶民たる僕オートマタなの

苦しくて誰をか殴り飛ばしたく、誰を殴ればいいのかわからぬ

たとえば電車待ちをしているときに飛び込む人がいたとして
僕は英雄的には振舞えないでしよう

車内に凶刃を振るう者が来たとしても同様で
何なら我先に逃げ出すかもしれません

逃げたらいいじゃないですか

大丈夫だよ、僕スッパマンみたいに振舞うよ

ただそんな想定をして生きることが健全なことだとは
思えないのです

悪と戦う義人の人は他にやりようがないからそうするので
戦いたがつてているようではいかん

各々が持ち場で試行錯誤を繰り返し、最善を尽くしている
という体で、今日も頑張ろうかな

写真は添えるだけ

僕は十九で入院した折、この世の一切を放棄していたにしては享樂を極めたその後よ

身体に異物を入れることには慎重であるべきだ
もう異物を入れ続けてきたので知らない

薬を打ちあんなに安心する母がいて

打たねばならぬでこんなに不安な僕がいる

面白いものですね、人とは

これについては他の人にどうこう言わない

カレーなら喜んで二度喰うのだが
はかな
僕げな香りよ



アシンメトリー

焼酎お茶割り三、四杯
もう決まっちゃう

大抵のことは許して進ぜよう
こういう時の僕は

主観的には全能だが

客観的には全くの無能である

酒なんてキチ〇イ水だよ、君

酔わないで

酔つぱらつちやいけない

しかしよよなかが実に常に酔つぱらつている
という事実

対応を取ろうとするならば

「己もまた酔うことになるう

対応取らなくていいんじゃないかな

そうだね、そうだよお

というわけで多少違和感ありつつも

挙動不審な僕は行く

昔、カリブで

海賊は正規軍には勝てない

どんなに強くても

強い海賊が正規軍に登用されて

さらに強くなる場合もある

昔のカリブ海では

中国では上下ひっくり返ることも

ままあつたようなので

その限りではない

ときには君も僕も海賊なんだから

海賊がどうしてそんなことわかるんだよ

と突っ込まれるのを覚悟の上

殲滅せんめつされる危険を少なくするよう

心掛けなきやいけないよ

あとがき

この詩集は二〇二一年五月から八月の間にネットに書き飛ばしたものの中から二十を選んで収めた。収録順は新しいものを先に、古いものを後にという風にした。というのはこの短い期間の中でも状態がどんどん悪くなっていると感じられたからだ。新しいものを後にすればより救いのない感じで詩集が閉じられることになるう。逆回しのファイルム、そんな調子の一冊だ。

他の人はもつと気安く過ごしていたかもしれない。真剣であることはしばしば陰気であるとのと同じ意味しか持たない。しかし疫禍で災難に遭われた方が大勢おられる。僕もまたわりと追い詰められたのだ。主に精神的に。経済的に追い詰められなかつたのは幸いだつたが、感じやすい詩人の心にこの期間は影を落とした。といつてたつた三ヶ月だが、三ヶ月あれば人の心が絶えるに十分。いえ、絶えてはいませんが。

そんなこんなで困難な日々も過ぎていくのだ。一切は風化していく。という具合に疫病も風化して乾いてかさぶたになりぼろつと取れて治つたらいいなと思う。

二〇二一年八月二日

多田龍介

アシンメトリー



著者
多田 龍介
発行者
多田 龍介
明水工房

令和三年八月三日 初版発行

©Ryusuke TADA 2021

